

# 友を想い、元気に

## 「生かされている」ことに感謝( )

村上 久幸 (旧姓 前田)



今度の誕生日で「後期高齢者」を迎えられそうだが・・・

思い起こせば、六十歳で「血管年齢八十歳」と診断され「がむしゃらな仕事ぶり」を息ついて見つめなおす機会(天の声)を得られ、六十一歳で、三十九年の会社員生活から卒業、早速タバコを止め、健康への生活習慣に挑戦したが、時すでに遅し・・・で、眼底出血網膜剥離などで「左目」は視力が戻らず・・・数回の入院生活を繰り返し、今日をむかえました。

「生かされている」ことに感謝しながら「男の平均寿命八十歳」まで元気で生きのびたら・・・「祝い金」を奮発しろよ・・・の心境ですハハハハハ。七十歳すぎても会っている小、中、高の同級生が数人いるが、隆重(中村)さんもその一人です。

彼は親の保育園を継承してから着々と事業を拡大し、さらに前向きな新たな目標を経営に反映させている。「大した男」だと感服している。

- 「彼の生き様を・・・客観的にみると・・・」
  - 「アンテナが多く高い」
  - 「一方聞いて沙汰するな」
  - 「子子孫孫までの繁栄を見据えた経営」
  - 「利害関係のない人間関係を大切に」
  - 「平常心」自律神経のバランスと謙虚さ」が良い決断環境を育て、決断を生む
  - 「短所」も見方を変えると「長所」
- などなどの「人生信条」が、生涯現役の彼を支えていると思う。益々の「堅実経営」と子子孫孫までの繁栄」にエールを送りたい!!!

### 「健勝を祈る!!!」

桜島山頂で一緒に食べた握り飯うまかった、柔道部での汗まみれの練習、玉龍高校甲子園へで・・・一緒に(私は、ついに生い茂った甲子園の外壁しか覚えていな

い・・・)受験で東京へ鈍行列車で一緒に(通路に新聞紙を置いて・・・)などと、彼との学生生活がなつかしい。

## 農事組合法人・根占生産組合理事 中村 隆重さん



なかむら・たかしげ 1939年、南大隅町出身。法政大学卒業後、東京の運送会社に就職。66年に帰郷し、父が営んでいた保育園の運営に携わる。72年の白鳩会設立に伴い、理事に就任。75年から現職。根占生産組合では設立当初から理事。中村家子代表理事は長女。

農事組合法人・根占生産組合は、障害者の自立・就労を原動力に「花の木農場」で茶や大豆の生産、養豚などを手がける。福祉と結び、生産から製造、販売までトータルで「リレー(生産履歴)」が確保された「安心・安全」な食を提供、事業規模を拡大している。同組合理事で、労働力の供給源である社会福祉法人「白鳩会」の中村重理理事長( )に、今後の展開などを聞いた。

## 障害者と「6次産業化」

「花の木農場」とは。根占生産組合と白鳩会が運営する自家農場や加工施設の総称で、障害者の就労の場になっている。南大隅町の敷地に農地やハウス、畜舎を併設する。生産した農畜産物で豆腐やシエラトなどを製造する事業所・施設が四つ、それらを販売するアンテナショップ四つが鹿児島市などにあり、生産・加工過程で障害者1350人が働く。

## ■ 農畜産物の加工・販売まで

「1978年、農事組合法人「根占生産組合」設立。出資費1100万円、概78. 社会福祉法人「白鳩会」は2010年度売上高1億2300万円、従業員17人。うち10人は障害者。おすの園も開園。彼らも労働の成果を喜べない。そこに企業的な農業経営が出てきた。経営の自由度が高い農事組合法人を設立し、白鳩会と労務委託契約を結ぶことにした。

## 私のビジネス戦略

「茶は年間100トを生産し、6割を「大撰茶」として販売し、残りは茶葉・出荷する。大豆は最初の3年間は台風被害にも遭ったが、今は年間15トを生産し、主に豆腐や豆乳に加工している。水耕栽培した南の雄を目標したい」